

「こども環境学習プログラム」 策定の意義

今日の環境問題は、地球温暖化や廃棄物に係る問題にみられるように、私たちのライフスタイルと密接に関わっています。

このような中で、私たち一人ひとりが家庭、学校、地域社会、職場等の様々な場において、自分の問題として環境問題を捉え、日常生活や地域において具体的に行動することが大切であり、そのための「環境学習」は大変重要であります。

平成10年度に策定された「山口県環境学習基本方針」においては、

「環境学習」のめざす方向として、

家庭・学校・地域社会・職場等のあらゆる場において、
それぞれの自主性を生かしながら、
県民すべてが主体的な学習を通じて、
自分の問題として環境問題を捉え、具体的な行動をおこすこと

を掲げています。

特に、学校教育における取組としては、平成10年12月に、小・中学校の新しい学習指導要領に「総合的な学習の時間」が新たに設けられ、この中で国際理解、情報、福祉に加え、重要な課題として「環境」に係る学習活動を行うこととされています。

また、社会教育その他多様な場における取組としては、幼児から高齢者までのそれぞれの年齢層に対して、多様な場における環境学習の推進が図られることが求められております。

このようなことから、本県では、幼少期からの環境学習が特に重要であるとの認識から、子供たちが、

- 豊かな自然の中での貴重な体験を通じて、環境の価値を認識し、環境を守り、育む心、豊かな感性を形成すること
- 日常生活の中で、人間の活動がいかに深く環境との関わりの中で営まれているかを体験に基づき認識すること

を目的に「こども環境学習プログラム」を作成しました。

環境学習の実践には次の6つの基本視点が必要となります。

本プログラムを活用される指導者の方は、この視点を理解し、ただ単にプログラムの内容を実践するだけでなく、自らの工夫と実践を通じて、目的どおりの十分な成果が生み出されるよう、効果的な活用をお願いします。

環境学習実践の視点

1 環境保全・創造活動に進んで参加し、解決のための行動を実践できる人を育成する。

環境に関する知識の習得だけでなく、体験に基づき、総合的・科学的アプローチを加え、環境を積極的に保全・創造していこうとする態度と行動力を養う。

2 フィールドワーク、体験学習を重視して実施する。

実践的体験を継続・反復することにより、具体的な行動と知識・理解を深化・発展させる。

3 幼児から高齢者までのあらゆる年齢層に応じて体系的に実施する。

幼少期に人や自然とのふれあいを通じて環境への関心、守り育む心、豊かな感性を養うことは重要であり、このように、個人の発達段階に応じたプログラムに基づき、「関心」→「理解」→「行動」へと体系的に実施する。

4 家庭、学校、社会（地域、企業等）の連携の中で継続的に実施する。

環境への負荷の少ないライフスタイルや経済社会システムを築いていくためには、日常生活から生産・流通・消費・廃棄の社会のあらゆる面での取組が必要であり、それぞれの場における知識や経験をもとに連携を図りながら継続的に進める。

5 総合科学（自然科学、社会科学、人文科学）として実施する。

環境問題は、科学的事実に基づく共通認識の形成が必要であり、その分野も、自然科学、社会科学、人文科学にまたがっており、学際的な総合科学として進める。

6 地域の特性（自然・歴史・文化・伝統）と地球的視野を踏まえて実施する。

環境は、それぞれの地域において、異なる自然的・社会的・文化的特性を有しており、これらの地域特性を踏まえ、地域独自の創意・工夫のもとに、環境の保全・創造を進める。また、地球温暖化問題等の地球規模の環境問題が人類共通の課題となっており、これらの解決に向けて地域からの取組を進めるとともに、環境学習においても国際的な支援と協力を努める。